

氏名	大西敦之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4910 号
学位授与の日付	平成 26 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 .Serum Levels of Soluble Adhesion Molecules as Prognostic Factors for Acute Liver Failure
(急性肝不全症例における血清中可溶性接着分子の意義)

論文審査委員 教授 森松 博史 教授 四方 賢一 准教授 大橋 俊孝

学位論文内容の要旨

急性肝不全例の血清中可溶性接着分子レベルと予後との関連について検討した。急性肝不全 37 例及び健常人 34 例において、入院時の血清中 sPECAM-1、sICAM-3、sE-selectin、sICAM-1、sP-selectin、sVCAM-1 レベルを FlowCytomix で測定した。健常人に比較し、急性肝不全例において血清中 sPECAM-1、sICAM-3、sE-selectin、sICAM-1 レベルが高値であった。予後不良因子の検討では、単変量解析にて血小板数、直接ビリルビン/総ビリルビン比に加えて血清中 sPECAM-1 及び血清中 sICAM-1 レベルが予後と関連していた。多変量解析では、直接ビリルビン/総ビリルビン比と血清中 sPECAM-1 レベル及び血清中 sICAM-1 レベルが予後不良と関連していた。予後予測因子としての診断精度については、急性肝不全 37 例における ROC 曲線より血清中 sPECAM-1、sICAM-1 レベルの AUC はそれぞれ 0.71 と 0.74 であった。一方、血小板数、PT 活性値、直接ビリルビン/総ビリルビン比の AUC はそれぞれ 0.77、0.70、0.85 であった。血清中 sPECAM-1 及び血清中 sICAM-1 レベルについて、急性肝不全の病態への関与と予後因子としての有用性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は急性肝不全患者において血清中の可溶性接着分子レベルと予後の関連について検討したものである。この分野においてはこれまで報告のない、sICAM-1 と sPECAM-1 のレベルと患者予後との関係を見いだしている。現在のシステムでは難しいとされている重症急性肝不全患者の予後の予測を向上させる可能性がある研究として価値ある業績であるとみとめる。

よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。